

Sun Blade X4-2B プロダクトノート

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	7
Sun Blade X4-2B モデル名	7
最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得	7
ドキュメントとフィードバック	8
このドキュメントについて	8
サポートとトレーニング	9
寄稿者	9
変更履歴	9
Sun Blade X4-2B プロダクトノート概要	11
システムのハードウェア機能とソフトウェア機能	13
サポートされるファームウェアのリビジョン	13
ファームウェアのリリース履歴	14
Sun Blade 6000 モジュラーシステム環境	14
サポートされているサーバーモジュールコンポーネント	17
サポートされているオペレーティングシステム	19
サーバーの更新情報	19
Integrated Lights Out Manager (ILOM)	20
ハードウェア、ファームウェア、および BIOS に関する現時点での問題点	21
PCIe EM スロット 0 の特定の PCIe ExpressModule によるウォームリセットでエラーが発生する可能性がある (16798624 および 17210462)	22
UEFI ブート変数を管理するためにオペレーティングシステムツールまたはユーティリティを使用しない (15818528)	22
チャンネルの 1 つの DIMM に UE がある場合、ほかの DIMM にエラーが発生する可能性がある (16181966)	23
2 つの PCIe EM のホットプラグにより、訂正可能なエラーメッセージが生成される可能性がある (15752501)	23
SP とホストは同時にリポートしない (16346073)	23
Oracle ILOM restore_status パラメータに一部のステータスが表示される (7167938)	23

Oracle ILOM 3.1 は、Oracle Solaris 10 1/13 および Solaris 11.1 オペレーティングシステムによって診断された障害のクリアをサポートしないことがある (7170842) .. ドライブのスロット装着と仮想ドライブの作成に関する Oracle の推奨事項 (7124194)	24
Cisco 製のスイッチを使用していると PXE ブートに失敗する (7149683)	25
UEFI モードとレガシーモード間の移行中に UEFI ブートリストの設定が失われる ことがある (7080526)	26
Oracle System Assistant の現時点での問題点	27
サーバーにハードディスクがないとファームウェアの更新タスクが失敗する (7178868)	27
ユーザーは SP を更新するためにフル管理者ロール特権が必要である (7158820)	28
一部のオペレーティングシステムで Oracle System Assistant USB デバイスをマウン トできない	28
Oracle System Assistant が「user」というユーザー名をサポートしていない (7153741)	28
Windows 2008 で仮想 Ethernet デバイスがインストールされていないと報告される (7129124)	29
Oracle System Assistant を使用して Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA をレガシー BIOS ファームウェアから UEFI BIOS ファームウェアに更新できない (7123372)	29
Windows ダウンロードファイルを解凍するとき「Path too Long (パス名が長過ぎ る)」エラーが発生する (7116803)	30
「Launch」ボタンを使用して Oracle System Assistant を起動すると Oracle ILOM Web インタフェースにポップアップメッセージが表示される (7126194)	31
Linux の現時点での問題点	33
Unbreakable Linux Kernel Release 2 を含む RHEL または OL 6.4 システムで BurnInTest 3.1 によってカーネルパニックが発生する (17047864)	34
UEFI ブートモードを使用して、Oracle Linux 6.3 および 6.4 を iSCSI にインス トールできない (15807672)	34
RHEL 6.4 で hwmgmt サービスが正しく起動しない (16975947)	34
Sun Blade 6000 Virtualized 40 GbE NEM によるリポート時に Oracle Linux 6.4 S システ ムがハングすることがある (16632764)	35
SLES 11 SP2 および 3 システムが UEFI BIOS モードでブートしないことがある (16817765)	35
ACPI C-State が Oracle Linux 6.4 を実行するサーバーで機能しない (16870068)	35
Oracle Linux 5.9 または 6.4 をリポートするか、または電源を入れ直したあと に、CPU が低周波数のままになる (16728705, 17181067)	36
Libparted Disk Probe 時に Oracle Linux 6.1 のインストールが失敗する (15770848) .	36
ホストのリセットにより、Linux システムがハングアップする (16009236)	37

Oracle Linux 6.2 以降、Oracle ILOM がシステム情報を取得しない (7175441)	37
Linux の一部のバージョンに Oracle System Assistant USB デバイスをマウントできない	37
Oracle VM および VMware ESXi に関する問題	39
Oracle VM の現時点での問題点	39
VMware ESXi の現時点での問題点	41
Oracle Solaris の問題点	43
Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ	43
Oracle Solaris 10 および Solaris 11 OS の現時点での問題点	43
Windows に関する問題	47
デュアル 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE HBA (QLogic) カードのホットプラグにより、Windows 2012 がクラッシュすることがある (17058802) ...	47
インストール済みの Linux システムに Windows OS をインストールする前に、BIOS を出荷時デフォルトにリセットする (15890512)	47
hwmgmtcli ツールの起動時のエラーメッセージ (15909859)	48
ドキュメントの正誤情報	49
サービスラベルに表示された REM ケーブル	49
サーバーファームウェアおよびソフトウェアの更新の入手	51
ファームウェアとソフトウェアの更新	51
ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション	52
ソフトウェアリリース	52
MOS または PMR からのファームウェアおよびソフトウェアの取得	54
その他の方法による更新のインストール	58

このドキュメントの使用方法

このセクションでは、システムの最新のファームウェアとソフトウェア、ドキュメントとフィードバック、およびドキュメント変更履歴の入手方法を説明します。

- 7ページの「Sun Blade X4-2B モデル名」
- 7ページの「最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得」
- 8ページの「ドキュメントとフィードバック」
- 8ページの「このドキュメントについて」
- 9ページの「サポートとトレーニング」
- 9ページの「寄稿者」
- 9ページの「変更履歴」

Sun Blade X4-2B モデル名

名前は、次を示します。

名前は次の Sun Blade **X4-2B** サーバーモジュールを識別します。

- 1: アルファベットの X は x86 製品を示します。
- 2: 最初の数字 4 はサーバーの世代を示します。
- 3: 2 番目の数字 2 は、プロセッサの数を示します。
- 4: アルファベットの B は、製品がブレードサーバーであることを示します。

最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得

Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール (ブレード)、およびブレードシャーシのファームウェア、ドライバ、およびその他のハードウェア関連ソフトウェアは、定期的に更新されています。

最新バージョンは次の 3 つのうちいずれかの方法で入手できます。

- Oracle System Assistant - これは、Sun Oracle x86 サーバー用の、出荷時にインストール済みのオプションです。OSA は必要なすべてのツールとドライバを備えており、ほとんどのサーバーに取り付けられている USB ドライブに格納されています。
- My Oracle Support - <http://support.oracle.com>

- 物理メディアのリクエスト

詳細については、51 ページの「サーバーファームウェアおよびソフトウェアの更新の入手」を参照してください。

ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Sun Blade X4-2B サーバーモジュール	http://www.oracle.com/goto/X4-2B/docs
X4 サーバーシリーズのシステム管理	Oracle x86 X4 シリーズサーバーの管理ガイド (http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs)
Oracle System Assistant	Oracle x86 X4 シリーズサーバーの管理ガイド (http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs)
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs
Oracle Hardware Management Pack	http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs
シャーシ Sun Blade 6000 モジュラーシステム	http://www.oracle.com/goto/SB6000/docs

このドキュメントについてのフィードバックは <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で入手できます。情報はトピックに基づく形式(オンラインヘルプと同様)で表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

特定のトピック(ハードウェア設置やプロダクトノートなど)に関するすべての情報が含まれる PDF を生成するには、HTML ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

サポートとトレーニング

次の Web サイトに追加のリソースがあります。

- サポート:<http://support.oracle.com>
- トレーニング:<http://education.oracle.com>

寄稿者

主著者: Lisa Kuder、Ray Angelo、Mark McGothigan

寄稿者: Mike Ma、Qing-su Hu、Lu Wei、Cynthia Chin-Lee、Michael Tabor、Ralph Woodley

変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です。

- 2013 年 9 月初版。

Sun Blade X4-2B プロダクトノート の概要

『Sun Blade X4-2B プロダクトノート』には、本サーバーに関する情報(ソフトウェア、ハードウェア、ファームウェア、および BIOS に関する注意や問題点を含む)が記載されています。

注- このドキュメントには、ドキュメントの発行時点でのサーバーの正確な情報が記載されています。最新の情報は、次のオンライン Sun Blade X4-2B ライブラリで入手できます。

<http://www.oracle.com/goto/X4-2B/docs>

説明	リンク
サーバーでサポートされているコンポーネント、ファームウェア、ソフトウェアに関する情報です。	13 ページの「システムのハードウェア機能とソフトウェア機能」
ハードウェア、ファームウェア、および BIOS に関する注意と問題点を確認します。	21 ページの「ハードウェア、ファームウェア、および BIOS に関する現時点での問題点」
Oracle System Assistant に関する問題点と回避方法の一覧です。	27 ページの「Oracle System Assistant の現時点での問題点」
Linux OS に関する問題点と回避方法の一覧です。	33 ページの「Linux の現時点での問題点」
Oracle VM、および VMware ESXi に関する問題点と回避方法の一覧です。	39 ページの「Oracle VM および VMware ESXi に関する問題」
Oracle Solaris に関する問題点と回避方法の一覧です。	43 ページの「Oracle Solaris の問題点」
Windows に関する問題点と回避方法の一覧。	47 ページの「Windows に関する問題」
サーバーのファームウェアとソフトウェアの取得方法に関する情報です。	51 ページの「サーバーファームウェアおよびソフトウェアの更新の入手」

システムのハードウェア機能とソフトウェア機能

次の各セクションでは、Sun Blade X4-2B のハードウェア構成要件とソフトウェア機能について説明します。

- 14 ページの「ファームウェアのリリース履歴」
- 14 ページの「Sun Blade 6000 モジュラーシステム環境」
- 17 ページの「サポートされているサーバーモジュールコンポーネント」
- 19 ページの「サポートされているオペレーティングシステム」
- 19 ページの「サーバーの更新情報」
- 20 ページの「Integrated Lights Out Manager (ILOM)」

サポートされるファームウェアのリビジョン

サーバーファームウェアのバージョンは、既知の問題を修正するために必要に応じて更新されるため、サポートされるファームウェアのバージョンは時間とともに変わります。

サポートされるファームウェアバージョンに関する最新情報については、Oracle System Assistant の ReadMe ファイルを参照してください。ReadMe ファイルにアクセスするには、「Oracle System Assistant System Overview」ページで「Help」ボタンをクリックしてから、「Release Notes」をクリックします。ReadMe ファイルに最新のファームウェアバージョンの情報が確実に含まれるようにするには、サーバーに使用可能な最新のソフトウェアリリースで Oracle System Assistant を更新します。

ReadMe ファイルは、My Oracle Support で最上位の ReadMe としてもアクセスできます (My Oracle Support からダウンロードする任意のサーバーソフトウェアパッケージに含まれています)。ダウンロード手順については、51 ページの「サーバーファームウェアおよびソフトウェアの更新の入手」を参照してください。

ファームウェアのリリース履歴

次の表に、リリースされたサーバーファームウェアのバージョン一覧を示します。

注-最新のシステムソフトウェアリリースにアップグレードすることをお勧めします。これにより、システムでサポートされる最新のファームウェア、BIOS、およびドライバを入手できます。システムの最新ソフトウェアリリースをダウンロードするには、<http://support.oracle.com> にアクセスしてください。

システムソフトウェアリリース	Oracle ILOM SP ファームウェア	システム BIOS	CPLD
1.0	3.1.2.34 (r82635)	28001700	3.2

Sun Blade 6000 モジュラーシステム環境

Sun Blade X4-2B は、3つの Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシ、すなわち A90-B、A90-D、および 7105379 でサポートされています。一部の構成では、Sun Blade X4-2B を取り付けたとき、シャーシでサポートされる NEM、サーバーモジュール、PCIe ExpressModule が異なることがあります。

注-使用しているシャーシモデルを確認するには、Sun Blade 6000 モジュラーシステムに関するサービスマニュアルを参照してください。

次の各トピックで、各シャーシでサポートされているコンポーネントと構成について説明します。

- 14 ページの「A90-B シャーシでサポートされているコンポーネント」
- 15 ページの「A90-D または 7105379 シャーシでサポートされているコンポーネント」
- 16 ページの「サポートされている PCIe ExpressModule」

A90-B シャーシでサポートされているコンポーネント

Sun Blade X4-2B を A90-B Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシで使用するには、次の構成が必要です。

- PCIe 2.0 ミッドプレーン
- シャーシソフトウェアの最小リリース: 3.3.3

次の表に、Sun Blade X4-2B を取り付けたとき、A90-B シャーシでサポートされる NEM、ストレージモジュール、サーバーモジュールの一覧を示します。

注- 次の一覧に含まれていないサーバーモジュールや NEM がシャーシに取り付けられている場合は、必ずそれらのコンポーネントを取り外してから Sun Blade X4-2B を取り付ける必要があります。

サポートされている NEM¹

- Sun Blade 6000 10p GbE Pass-Thru NEM (X4250A-N)
- Sun Blade 6000 Ethernet Switched NEM 24p 10 GbE (X2073A-N)

¹ 各 NEM で、追加の FEM および REM のサポートが必要になることもあります。17 ページの「NEMに必要な FEM と REM」を参照してください。

サポートされているサーバーモジュール

- SPARC T3-1B サーバーモジュール
- SPARC T4-1B サーバーモジュール
- SPARC T5-1B サーバーモジュール
- Sun Blade T6320 サーバーモジュール
- Sun Blade T6340 サーバーモジュール
- Sun Blade X6270 サーバーモジュール
- Sun Blade X6270 M2 サーバーモジュール
- Sun Blade X3-2B
- Sun Blade X4-2B
- Sun Blade T6300 サーバーモジュール (注: このサーバーモジュールは、Sun Blade 6000 10p GbE Pass-Thru NEM のみをサポートしています)

注- Sun Blade Storage Module M2 は、Sun Blade X4-2B でストレージリソースとしてサポートされません。

A90-D または 7105379 シャーシでサポートされているコンポーネント

Sun Blade X4-2B を A90-D または 7105379 Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシで使用するには、次の構成が必要です。

- PCIe 2.0 ミッドプレーン
- サポートされているシャーシソフトウェアの最小リリース: 4.2

次の表に、Sun Blade X4-2B を取り付けるとき、A90-B または 7105379 シャーシでサポートされる NEM、ストレージモジュール、サーバーモジュールの一覧を示します。

注 - 次の一覧に含まれていないサーバーモジュールや NEM がシャーシに取り付けられている場合は、必ずそれらのコンポーネントを取り外してから Sun Blade X4-2B を取り付ける必要があります。

サポートされている NEM¹

- Sun Blade 6000 10p GbE Pass-Thru NEM (X4250A-N)
- Sun Blade 6000 Ethernet Switched NEM 24p 10 GbE (X2073A-N)
- Sun Blade 6000 40 GbE Virtualized NEM (7100090)

注 - この NEM の CMM 要件については、シャーシのプロダクトノートを参照してください。

¹ 各 NEM で、追加の FEM および REM のサポートが必要になることもあります。17 ページの「NEMに必要なFEMとREM」を参照してください。

サポートされているサーバーモジュール

- SPARC T3-1B サーバーモジュール
 - SPARC T4-1B サーバーモジュール
 - SPARC T5-1B サーバーモジュール
 - Sun Blade X4-2B
 - Sun Blade X6275 M2 GbE サーバーモジュール
 - Sun Blade X6275 M2 10 GbE サーバーモジュール
-

注 - Sun Blade Storage Module M2 は、Sun Blade X4-2B でストレージリソースとしてサポートされません。

サポートされている PCIe ExpressModule

A90--B、A90-B、または 7105379 Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシに取り付けられた Sun Blade X4-2B では、次の PCIe ExpressModule (PCIe EM) がサポートされています。

種類	サポートされている PCIe EM
ギガビット Ethernet とファイバチャンネル	<ul style="list-style-type: none"> ■ デュアル 8Gb ファイバチャンネルとデュアル 1 GbE (Emulex) ■ デュアル 8Gb ファイバチャンネルおよびデュアル 1 GbE (QLogic) ■ デュアル 16 Gb ファイバチャンネルまたはデュアル 10 GbE HBA (QLogic) 次のいずれかのトランシーバが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Sun Storage 16 Gb FC ショートウェーブ光学式 ■ Sun Storage 16 Gb FCoE ショートリーチ光学式
ギガビット Ethernet	<ul style="list-style-type: none"> ■ Sun Quad Port GbE PCIe 2.0 ExpressModule、MMF ■ Sun Quad Port GbE PCIe 2.0 ExpressModule、UTP
10 ギガビット Ethernet	<ul style="list-style-type: none"> ■ Sun Dual 10GbE SFP+ PCIe 2.0 ExpressModule ■ Sun Dual Port 10GBase-T ExpressModule
SAS ホストバスアダプタ (HBA)	6Gb/s SAS2 ExpressModule HBA
Infiniband	Sun InfiniBand QDR Host Channel アダプタ PCIe Express Module

サポートされているサーバーモジュールコンポーネント

次の各トピックで、サーバーに取り付けるサポートされているコンポーネントについて説明します。

- 17 ページの「[NEMに必要なFEMとREM](#)」
- 18 ページの「[サポートされているCPU](#)」
- 18 ページの「[サポートされているメモリー](#)」
- 18 ページの「[サポートされているストレージドライブ](#)」

NEMに必要なFEMとREM

次の表に、NEMをサポートするために、サーバーモジュールに取り付ける必要があるファブリック拡張モジュール (FEM) を示します。

注 - シャーシモデルに基づいた NEM 要件については、14 ページの「[Sun Blade 6000 モジュラーシステム環境](#)」セクションの関連するトピックを参照してください。

サポートされている NEM	必要な FEM
Sun Blade 6000 10p GbE Pass-Thru NEM (X4250A-N)	FEM 必要なし。

サポートされている NEM	必要な FEM
Sun Blade 6000 Ethernet Switched NEM 24p 10 GbE (X2073A-N)	X4871A-Z
Sun Blade 6000 40 GbE Virtualized NEM (7100090)	7100283 (ATO) 7100633 (PTO)

サポートされている CPU

次の表に、サポートされている CPU の一覧を示します。

サポートされている CPU
<ul style="list-style-type: none"> ■ Intel Xeon E5-2697 V2 (12 コア、2.7 GHz、130W) ■ Intel Xeon E5-2690 V2 (10 コア、3.0 GHz、130W) ■ Intel Xeon E5-2650 V2 (8 コア、2.6 GHz、95W) ■ Intel Xeon E5-2630 V2 (6 コア、2.6 GHz、80W) ■ Intel Xeon E5-2609 V2 (4 コア、2.5 GHz、80W)

サポートされているメモリー

全部で 24 個 (CPU ごとに 12 スロット) の ECC メモリースロット付きレジスタード DDR3 DIMM。次の表に、サポートされているメモリーの一覧を示します。

サポートされているメモリー
<ul style="list-style-type: none"> ■ 8 GB DDR3 LV RDIMM ■ 16 GB DDR3 LV RDIMM

サポートされているストレージドライブ

サーバーには 4 基の SAS/SATA 2.5 インチディスクベイが搭載されており、ハードドライブ (HD) および半導体ドライブ (SSD) を装着できます。次の表に、サポートされているストレージドライブの一覧を示します。

サポートされているストレージドライブ
<ul style="list-style-type: none"> ■ 300 GB 10000 rpm SAS-2 HDD ■ 600 GB 10000 rpm SAS-2 HDD ■ 1.2 TB 10000 rpm SAS-2 HDD ■ 400 GB SATA3 SSD

サポートされているオペレーティングシステム

次に、Sun Blade X4-2B でサポートされているオペレーティングシステムを示します。

- Oracle Linux 6.3 for x86 (64 ビット) と Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux
- Oracle Linux 5.9 および 6.4 for x86 (64 ビット) と Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux または Red Hat と互換性のあるカーネル
- Oracle Solaris 10 1/13
- Oracle Solaris 11.1 (インストール済みオプションとしても使用可能)
- RHEL 5.9、6.4
- SLES 11 SP2
- Oracle VM 3.2 (3.2.1、3.2.2、3.2.3、3.2.4) (3.2.1 インストール済みオプションとしても使用可能)
- VMware ESXi 5.0 update 2 および 5.1 update 1
- Windows Server 2008 SP2、Windows Server 2008 R2 SP1、Windows Server 2012

サーバーの更新情報

サポート維持、機能拡張、問題修正のためのサーバーの更新が公開されています。これらの更新には、新バージョンのファームウェア (BIOS および SP/Oracle ILOM)、新しくリリースされたツールやドライバ、その他のパッケージコンポーネントに対する更新が含まれます。更新がリリースされると、更新の ReadMe ファイルに変更内容の詳細が記述されます。ReadMe ファイルは、次のソースで入手できます。

- Oracle System Assistant (「System Information」ページの「Help」ボタンをクリック)。
- Readme の概略としての My Oracle Support (MOS)。
- MOS からダウンロードしたサーバーパッケージに同梱。

関連情報

- 51 ページの「サーバーファームウェアおよびソフトウェアの更新の入手」
- 20 ページの「Integrated Lights Out Manager (ILOM)」

Integrated Lights Out Manager (ILOM)

各サーバーモジュールの計算ノードにはサービスプロセッサ (SP) が含まれていません。SP には Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) がインストールされており、これによって、IPMI 2.0 準拠のリモートサーバー管理機能が提供されます。

次のインタフェースによって、Oracle ILOM に対するネットワークアクセスが提供されます。

- サーバーモジュールノードのサービスプロセッサ (SP) またはシャーシモニタリングモジュール (CMM) を介した Integrated Lights Out Manager (ILOM)
- シリアル接続を使用したローカルの ILOM コマンド行のアクセス
- ミッドプレーンへの 10/100 管理 Ethernet ポート
- IP 経由のリモートのキーボード、ビデオ、マウス、およびストレージ (KVMS)

関連情報

ILOM の詳細については、ILOM 3.1 ドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs>) を参照してください。

ハードウェア、ファームウェア、および BIOS に関する現時点での問題点

このセクションの各トピックでは、Sun Blade X4-2B における、ハードウェア、ファームウェア、および BIOS に関する問題点について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題点の一覧です。

問題点へのリンク	回避方法
22 ページの「PCIe EM スロット 0 の特定の PCIe ExpressModule によるウォームリセットでエラーが発生する可能性がある (16798624 および 17210462)」	はい
22 ページの「UEFI ブート変数を管理するためにオペレーティングシステムツールまたはユーティリティを使用しない (15818528)」	はい
23 ページの「チャンネルの 1 つの DIMM に UE がある場合、ほかの DIMM にエラーが発生する可能性がある (16181966)」	なし
23 ページの「2 つの PCIe EM のホットプラグにより、訂正可能なエラーメッセージが生成される可能性がある (15752501)」	なし
23 ページの「SP とホストは同時にリポートしない (16346073)」	なし
23 ページの「Oracle ILOM restore_status パラメータに一部のステータスが表示される (7167938)」	はい
24 ページの「Oracle ILOM 3.1 は、Oracle Solaris 10 1/13 および Solaris 11.1 オペレーティングシステムによって診断された障害のクリアをサポートしないことがある (7170842)」	はい
25 ページの「ドライブのスロット装着と仮想ドライブの作成に関する Oracle の推奨事項 (7124194)」	該当なし
25 ページの「Cisco 製のスイッチを使用していると PXE ブートに失敗する (7149683)」	はい
26 ページの「UEFI モードとレガシーモード間の移行中に UEFI ブートリストの設定が失われることがある (7080526)」	はい

PCIe EM スロット 0 の特定の PCIe ExpressModule によるウォームリセットでエラーが発生する可能性がある (16798624 および 17210462)

デュアル 8Gb ファイバチャネルおよびデュアル 1 GbE (QLogic) または Sun InfiniBand QDR Host Channel アダプタ PCIe ExpressModule が、シャーシの PCIe EM スロット 0 に取り付けられており、ブレードがリセットされた場合、SP に障害が記録されることがあります。次に例を示します。

```
fault.cpu.intel.l2cache on /SYS/MB/P0
```

システムは PCIe カードが回復するまで複数回自動リブートし、その後に正常にリブートします。

▼ UEFI ブート変数を管理するためにオペレーティングシステムツールまたはユーティリティーを使用しない (15818528)

Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) モードでのオペレーティングシステムのインストール中に、オペレーティングシステムインストーラが、ブートするオペレーティングシステムを選択するための BIOS メニューで使用される UEFI ブート変数を作成します。

オペレーティングシステムインストーラによって作成されるブート変数が失われるのを回避するために、これらのブート変数の管理 (作成、変更、または削除) にはどのオペレーティングシステムツールまたはユーティリティーも使用すべきではありません。ブート変数が失われると、ユーザーがオペレーティングシステムをブートできなくなります。

回避方法

- UEFI ブート変数が失われた場合は、新しい UEFI ブート変数を作成するためにオペレーティングシステムを再インストールします。

チャンネルの1つのDIMMにUEがある場合、ほかのDIMMにエラーが発生する可能性がある(16181966)

DIMMの訂正不可能な(UE)エラーに対しては次の動作が予想されます。

- 1つのチャンネルのDIMM0にUEがある場合、そのマッピングが解除されます。続いて、同じチャンネルのDIMM1およびDIMM2にトレーニングエラーが発生し、同様にマッピングが解除されます。最終的に、チャンネル全体が無効になります。
- 1つのチャンネルのDIMM1またはDIMM2にUEがある場合、障害のあるDIMMはマッピングが解除されますが、ほかのDIMMは影響を受けません。

これらのいずれの場合でも、マッピング解除されたDIMMでメモリーパトロールスクラブエラーが発生する可能性があります。

2つのPCIe EMのホットプラグにより、訂正可能なエラーメッセージが生成される可能性がある(15752501)

MPS値が異なる2つのPCIe EMを同じスロットに連続してホットプラグすると、OSが多くの訂正可能なエラー(CE)メッセージを報告します。

MPS値は1回だけ自動ネゴシエートできます。最初のPCIe EMとネゴシエートした値は、2つ目のPCIe EMで必要とされる値と異なることがあります。そのような不一致によって、CEメッセージが発生することがあります。

SP とホストは同時にリブートしない(16346073)

ホストのリブート中に、サービスプロセッサ(SP)をリブートしようとする、BIOSがハングアップすることがあります。

▼ Oracle ILOM `restore_status` パラメータに一部のステータスが表示される(7167938)

Oracle ILOM UEFI BIOS 構成がロードされる時、構成ファイルに入力ミスや非アクティブパラメータ(BIOSの現バージョンでは無効になっているパラメータ)が含まれていることがあります。結果として、1つ以上のパラメータのロードに失敗することがあります。

これが発生すると、Oracle ILOMの `/System/BIOS/Config/restore_status` パラメータ(最後に実行された構成ファイルのロードのステータスを保持している)によって、構成ファイルのロードが不完全な復元として報告されます。

す。/System/BIOS/Config/restore_status パラメータの値は、Oracle ILOM UEFI BIOS 構成ファイルが次回ロードされるまで変更されません。

回避方法:

- 1 テキストエディタを使用して、次のような内容のファイルを作成します。
<BIOS>
</BIOS>
- 2 .xml 拡張子でファイルを保存します。
- 3 構成をロードするには、次のコマンドを入力します。
-> **load -source URI_location/file_name.xml /System/BIOS/Config**
ここで、URI_location はパス、file_name.xml は直前の手順で作成したファイルです。
- 4 ホストの電源が入っている場合は、次のコマンドを入力してホストをリセットします。
-> **reset /System**

▼ Oracle ILOM 3.1 は、Oracle Solaris 10 1/13 および Solaris 11.1 オペレーティングシステムによって診断された障害のクリアをサポートしないことがある (7170842)

Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 は、次の Oracle Solaris オペレーティングシステムによって診断された障害をクリアできないことがあります。

- Oracle Solaris 10 8/11
- Oracle Solaris 11 11/11

回避方法:

- 次のいずれかを実行します。
 - Oracle Solaris OS を使用して障害をクリアします。
 - Oracle ILOM CLI の **faultmgmt** シェルから次の手順を実行します。
 - a. 「**fmadm faulty**」の出力から障害の **UUID** を確認します。
 - b. 「**fmadm acquit<UUID>**」と入力して障害をクリアします。

ドライブのスロット装着と仮想ドライブの作成に関する Oracle の推奨事項 (7124194)

ブレードサーバーは特別なアーキテクチャーを採用しているため、ディスクサブシステムを構成する際には留意しなければならない重要な点が多数あります。これらには、ドライブのタイプの選択 (SAS、SSD) とサーバーモジュール内でのそれらのドライブの場所が含まれます。大半のサーバーモジュールの内蔵ディスクは1つのポートによって接続されており、最大動作速度は3Gビット/秒です。

注 - Sun Blade 6000 ストレージモジュールは、Sun Blade X4-2B サーバーモジュールでサポートされていません。

デュアルポートドライブは耐障害性が強化されており、プライマリポートで障害が発生してもドライブがオンラインのまま維持されます。現在、SAS ドライブがデュアルポートをサポートしています。SATA と SATA SSD ドライブはシングルポートです。

システムを構成するには、さまざまなサーバーモジュールとドライブタイプを考慮に入れた上で、次の点に配慮する必要があります。

- 各仮想ドライブは同じインタフェースを持つドライブだけ (たとえば、SAS ドライブのみ、または SATA SSD ドライブのみ) で構成する必要があります。
- 専用ホットスペアのみを使用します。別の障害ドメインからアクセスできる場合は、グローバルなホットスペアを使用してはいけません。
- 専用ホットスペアには、同じ障害ドメインに属するドライブグループだけを含める必要があります。そうすることで、任意のドメイン用に「仮想」グローバルホットスペアを作成できます。
- Sun Blade X4-2B では、SAS と SATA の両タイプのドライブをサポートしていますが、サーバーモジュールで使用した場合、SAS ドライブは最大速度では動作せず、2つ目のポートを使用できません。
- SAS ドライブと SATA ドライブはサーバーモジュール内では混在してもかまいませんが、仮想ドライブではどちらか一方のタイプに統一する必要があります。たとえば、1つの Sun Blade X4-2B 内に、2ドライブの SAS RAID 1 と 2ドライブの SATA-SSD RAID 1 を混在させることができます。

▼ Cisco 製のスイッチを使用していると PXE ブートに失敗する (7149683)

Cisco 製のスイッチを使用している場合、サーバーの PXE ブートに失敗します。この問題には、次の2つの回避方法があります。

- 次のいずれかを実行します。
 - スイッチのシリアルコンソールに **exec** モードでログインし、スパニングツリーをオフにします。
Router(config)#no spanning-tree
 - 次のコマンドを入力して **Portfast** 拡張機能を有効にします。

注 - Portfast は Cisco のスパニングツリー拡張機能で、ポートを、ブロック/無効/学習中/リスン中の各状態から転送状態へと移行させることができます。Portfast を有効にすると、各デバイスは、ポートの初期化が終了次第、データを送受信できるようにになります。

```
Switch>enable Switch#configure terminal Switch(config)#spanning-tree portfast default
```

変更した内容を確認するため、次のコマンドを実行します。

```
Switch#show spanning-tree interface GigabitEthernet 0/48 portfast
```

▼ UEFI モードとレガシーモード間の移行中に UEFI ブートリストの設定が失われることがある (7080526)

BIOS モードをUEFI ブートとレガシーブート間で切り替えると、Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) ブート優先度設定が失われることがあります。2つの BIOS モード間での切り替えが発生する1つのケースとして考えられるのは、レガシーブートモードでしか動作しない PC チェックユーティリティにアクセスする必要がある場合です。必ず UEFI 構成設定を保存してから、UEFI BIOS モードとレガシー BIOS モード間で切り替えを行なってください。

- 1 **ueficonfig** アプリケーションを使用して構成設定を保存してから、BIOS モードを切り替えます。
- 2 UEFI モードに復帰したら、BIOS 構成設定を復元します。

UEFI 構成設定の保存に関する情報および手順については、次にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリの『Oracle ILOM 3.1 構成および保守ガイド』を参照してください。

<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs>

Oracle System Assistant の現時点での問題点

このセクションの各トピックでは、Sun Blade X4-2B における Oracle System Assistant の問題点について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題点の一覧です。

問題点へのリンク	回避方法
27 ページの「サーバーにハードディスクがないとファームウェアの更新タスクが失敗する (7178868)」	はい
28 ページの「ユーザーは SP を更新するためにフル管理者ロール特権が必要である (7158820)」	該当なし
28 ページの「一部のオペレーティングシステムで Oracle System Assistant USB デバイスをマウントできない」	はい
28 ページの「Oracle System Assistant が「user」というユーザー名をサポートしていない (7153741)」	はい
29 ページの「Windows 2008 で仮想 Ethernet デバイスがインストールされていないと報告される (7129124)」	はい
29 ページの「Oracle System Assistant を使用して Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA をレガシー BIOS ファームウェアから UEFI BIOS ファームウェアに更新できない (7123372)」	はい
30 ページの「Windows ダウンロードファイルを解凍するとき「Path too Long (パス名が長過ぎる)」エラーが発生する (7116803)」	はい
31 ページの「「Launch」ボタンを使用して Oracle System Assistant を起動すると Oracle ILOM Web インタフェースにポップアップメッセージが表示される (7126194)」	はい

▼ サーバーにハードディスクがないとファームウェアの更新タスクが失敗する (7178868)

サーバーに HDD がない場合、Oracle System Assistant ファームウェアの更新タスクが失敗します。ポップアップウィンドウが表示され、次のエラーメッセージが報告されます。

Oracle System Assistant failed to get firmware version for the following components:

回避方法

- 1つ以上の HD をサーバーに追加し、ファームウェアの更新タスクを再度実行します。

ユーザーは **SP** を更新するためにフル管理者ロール特権が必要である (7158820)

USB/LAN ローカルホスト相互接続を使用して Oracle System Assistant から Oracle ILOM/SP ファームウェアを更新する際に、ログインプロンプトが表示されます。ファームウェアの更新を実行するには、root、管理者、または高度な (aucro) ロール特権を持つユーザーとしてログインする必要があります。

注 - ローカルのホスト相互接続が USB/LAN ではない場合、ログインプロンプトは表示されません。ただし、SP の更新時間は増えます (ローカルホストの相互接続が USB/LAN でない場合に最大 40 分)。相互接続方法は、Oracle ILOM の「Local Host Interconnect」設定によって決まります。

ファームウェアの更新手順については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

一部のオペレーティングシステムで **Oracle System Assistant USB** デバイスをマウントできない

Oracle VM 3.0、Oracle Solaris 10、およびいくつかのバージョンの Linux など、一部のオペレーティングシステムで、Oracle System Assistant USB デバイスが自動マウントされません。デバイスにアクセスするには、手動でデバイスをマウントする必要があります。Oracle VM 3.0、Oracle Solaris 10、および Linux ベースのシステムにデバイスをマウントする方法の手順については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

▼ **Oracle System Assistant が「user」というユーザー名をサポートしていない (7153741)**

Oracle System Assistant サービスプロセッサ構成タスクでは、「user」というユーザー名でユーザーを作成できません。また、Oracle ILOM を使用して「user」という名前のユーザーを作成することはできますが、上記タスクでそのユーザーを削除または変更することはできません。

回避方法:

- ユーザー名 **user** のユーザーを作成、削除、および変更する場合は、**Oracle ILOM Web** インタフェースまたはコマンド行インタフェースを使用します。

Oracle ILOM の使用法については、次にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) ドキュメントライブラリを参照してください。

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>

▼ **Windows 2008 で仮想 Ethernet デバイスがインストールされていないと報告される (7129124)**

Windows Server 2008 SP2 および Windows Server 2008 R2 SP1 ドライバをインストールしたあと、Windows Device Manager によって仮想 Ethernet デバイスがインストールされていないと報告されます。Oracle System Assistant は、このインタフェースのドライバを提供していません。このドライバは、Oracle Hardware Management Pack で入手できます。

回避方法:

- 次のいずれかを実行します。
 - このドライバを入手するには、**Oracle Hardware Management Pack** をインストールします。この管理パックは、**Oracle System Assistant** で補助ツールとして使用できます。
 - このデバイスを無効にして **Windows Device Manager** に表示されないようにするには、次のコマンドを実行します。

```
ilomconfig disable interconnect
```

▼ **Oracle System Assistant を使用して Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA をレガシー BIOS ファームウェアから UEFI BIOS ファームウェアに更新できない (7123372)**

Oracle System Assistant を使用して、Sun Storage 6 Gb SAS PCIe ホストバスアダプタ (HBA) をレガシー (非 UEFI) BIOS ファームウェアから UEFI BIOS ファームウェアに更新することはできません。

HBA を Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) BIOS ファームウェアに更新するには、2つのファームウェアの更新を連続して行う必要があります。Oracle System Assistant では、1つの HBA に対してファームウェアの更新を連続して実行することはできません。そこで、代わりに、LSI sas2flash ユーティリティを使用します。

次の回避策を実行することで、LSI sas2flash ユーティリティを使用して HBA ファームウェアを更新します。

- 1 次から、OS バージョン固有の **sas2flash** ユーティリティをダウンロードします。
http://www.lsi.com/sep/Pages/oracle/sas_6gbs_support.aspx
- 2 コントローラ番号を確認するため、**sas2flash** ユーティリティを使用して、取り付け済み SAS2 (Sun Storage 6 Gb SAS PCIe) HBA をすべてリスト表示します -> **sas2flash -listall**
- 3 HBA を更新するため、次の **sas2flash** コマンドを実行します。ここで、*n* は、手順 2 の **sas2flash list** コマンドによって表示されたコントローラ番号です。
-> **sas2flash -c n -f fw-rem-11050000-0a030019.bin**
-> **sas2flash -c n -b x64sas2-07180207.rom**
-> **sas2flash -c n -b mptsas2-7210400.rom**

▼ Windows ダウンロードファイルを解凍するとき「Path too Long (パス名が長過ぎる)」エラーが発生する (7116803)

デフォルトの Windows Server 2008/2008R2 圧縮ユーティリティを使用して MOS からダウンロードした Windows パッケージを解凍すると、パスが長過ぎるという旨のエラーが表示されることがあります。パスの長さは、Windows OS によって決まります。ドライブ文字、コロン、バックスラッシュ、バックスラッシュで区切られた名前要素、および末尾の NULL 文字を含む最大パスは、260 文字と定義されています。

回避方法:

- サードパーティー製の圧縮ユーティリティを使用します。
サードパーティー製のユーティリティの中には、Windows のデフォルト圧縮ユーティリティとは異なり、より長い最大パス長を使用できるものがあります。

▼ 「**Launch**」 ボタンを使用して **Oracle System Assistant** を起動すると **Oracle ILOM Web** インタフェースにポップアップメッセージが表示される **(7126194)**

Oracle ILOM Web インタフェースの「Summary」ページには、ホストの電源ステータスインジケータが表示され、ホストの電源ステータスが正しく反映されます。ところが、Oracle System Assistant の「Launch」ボタンをクリックすると、ホストの電源ステータスインジケータにホストの電源ステータスが正しく反映されなくなり、次のようなポップアップメッセージが表示されることがあります。

Cannot retrieve host power status

- ポップアップメッセージを無視し、**Web** ブラウザを手動でリフレッシュしてページのホスト電源状態情報を更新します。

Linux の現時点での問題点

このセクションの各トピックでは、Sun Blade X4-2B 上で動作する Linux OS の問題点について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題点の一覧です。

問題点へのリンク	回避方法
34 ページの「Unbreakable Linux Kernel Release 2 を含む RHEL または OL 6.4 システムで BurnInTest 3.1 によってカーネルパニックが発生する (17047864)」	はい
34 ページの「UEFI ブートモードを使用して、Oracle Linux 6.3 および 6.4 を iSCSI にインストールできない (15807672)」	はい
34 ページの「RHEL 6.4 で hwmgmtd サービスが正しく起動しない (16975947)」	はい
35 ページの「Sun Blade 6000 Virtualized 40 GbE NEM によるリポート時に Oracle Linux 6.4 S システムがハングすることがある (16632764)」	はい
35 ページの「SLES 11 SP2 および 3 システムが UEFI BIOS モードでブートしないことがある (16817765)」	はい
35 ページの「ACPI C-State が Oracle Linux 6.4 を実行するサーバーで機能しない (16870068)」	はい
36 ページの「Oracle Linux 5.9 または 6.4 をリポートするか、または電源を入れ直したあとに、CPU が低周波数のままになる (16728705, 17181067)」	はい
36 ページの「Libparted Disk Probe 時に Oracle Linux 6.1 のインストールが失敗する (15770848)」	はい
37 ページの「ホストのリセットにより、Linux システムがハングアップする (16009236)」	はい
Broken Link (Target ID: GNJTH)	はい
37 ページの「Oracle Linux 6.2 以降、Oracle ILOM がシステム情報を取得しない (7175441)」	はい
37 ページの「Linux の一部のバージョンに Oracle System Assistant USB デバイスをマウントできない」	該当なし

▼ **Unbreakable Linux Kernel Release 2 を含む RHEL または OL 6.4 システムで BurnInTest 3.1 によってカーネルパニックが発生する (17047864)**

Red Hat Enterprise Linux または Oracle Linux 6.4 システムで、PassMark BurninTest Linux V3.1 の実行後、システムをリブートするかシャットダウンすると、シャットダウンの最終段階でカーネルにパニックが発生することがあります。これは、Intel SSD 100G または 400G を搭載するシステムに影響します。

カーネルパニックは、システムの動作に影響しません。エラーメッセージは無視でき、システムの電源を入れ直すか、または電源を切ります。

回避方法

- この構成を持つシステムに対して、**PassMark BurninTest Linux V2.1** を使用します。

▼ **UEFI ブートモードを使用して、Oracle Linux 6.3 および 6.4 を iSCSI にインストールできない (15807672)**

iSCSI デバイスへの Oracle Linux 6.3 および 6.4 のインストール時に、UEFI ブートモードを使用できません。

回避方法

- インストールにはレガシー BIOS ブートモードを使用してください。

▼ **RHEL 6.4 で hwmgmtd サービスが正しく起動しない (16975947)**

RHEL 6.4 で、Oracle Hardware Management Pack のインストール後、hwmgmtd サービスが正常に起動せず、ILOM から正しいシステム情報を取得できません。

回避方法

- hwmgmtd サービスの起動 (`/etc/init.d/hwmgmtd start`) の 60 秒以内に、IPMI サービス (`/etc/init.d/ipmi start`) を再起動します。

▼ Sun Blade 6000 Virtualized 40 GbE NEM によるリブート時に Oracle Linux 6.4 S システムがハングすることがある (16632764)

sxge NIC デバイスを使用した Oracle Linux 6.4 ブレードシステムで、sxge デバイスに静的 IP アドレスが割り当てられていないか、IP アドレスを取得するために、DHCP サーバーに接続できない場合、リブート時にハングアップすることがあります。

コンソールに最後に表示されるのは、「iptables: Unloading modules:」です。

回避方法

- 次のいずれかを実行します。
 - sxge デバイスに静的 IP アドレスを割り当てるか、DHCP サーバーから IP アドレスを取得できることを確認します。
 - `/etc/sysconfig/iptables-config` の `IPTABLES_MODULES_UNLOAD` 値を `yes` から `no` に変更します。

▼ SLES 11 SP2 および 3 システムが UEFI BIOS モードでブートしないことがある (16817765)

Option ROM を有効にしたデュアル 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE HBA (Qlogic) を取り付けた SLES 11 SP2 および 3 を実行するシステムは、UEFI BIOS ブートモードでブートできません。

回避方法

- BIOS セットアップユーティリティーで、デュアル 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE HBA (QLogic) に接続する PCIe EM スロットの OpROM オプションを無効にします。

▼ ACPI C-State が Oracle Linux 6.4 を実行するサーバーで機能しない (16870068)

Oracle Linux 6.4 を実行している場合、CPU は C3 および C6 CPU C ステートに入りません。

回避方法

- 1 /boot/grub/menu.lst の先頭の行に次のパラメータを追加します。
`intel_idle.max_cstate=0`
- 2 サーバーをリブートします。

▼ Oracle Linux 5.9 または 6.4 をリブートするか、または電源を入れ直したあとに、CPU が低周波数のままになる (16728705, 17181067)

パワーバジェットに上限が設定されている場合、Oracle Linux 5.9 または 6.4 システムがリブートするか、電源を入れ直したあとに、CPU が低周波数のままになることがあります。

回避方法

- 1 変更する CPU 情報を表示します。次のように入力します。
`# cat /proc/cpuinfo | grep processor`
- 2 サポートされている最大の CPU 周波数を取得します。次のように入力します。
`# cat /sys/devices/system/cpu/cpuN/cpufreq/cpuinfo_max_freq`
ここで、*N* は変更する CPU ID です。
- 3 各 CPU ID の `scaling_max_freq` を取得します。次のように入力します。
`# cat /sys/devices/system/cpu/cpuN/cpufreq/scaling_max_freq`
- 4 スケーリング最大周波数が、サポートされる最大周波数より小さい場合、各 CPU で、新しいスケーリング最大周波数を設定します。次のように入力します。
`# echo $max_frequency > /sys/devices/system/cpu/cpuN/cpufreq/scaling_max_freq`
ここで、`$max_frequency` は手順 2 で示す、特定された最大周波数です。
- 5 新しいスケーリング最大周波数を検証します。次のように入力します。
`# cat /sys/devices/system/cpu/cpuN/cpufreq/cpuinfo_scaling_max_freq`

▼ Libparted Disk Probe 時に Oracle Linux 6.1 のインストールが失敗する (15770848)

libparted で既存のパーティションが検出された場合に、libparted disk probe 時に Oracle Linux 6.1 のインストールが失敗することがあります。

回避方法

- **Oracle Linux 6.1** のインストールを開始する前に、既存のパーティションとデータのあるディスクをクリアします。
たとえば、インストールを開始する前に、`dd` コマンドを使用して、ディスクをクリアします。

▼ ホストのリセットにより、**Linux** システムがハン グアップする (16009236)

ホストのリセット (電源の入れ直しをしないシステムのソフトウェアリセット) 後に、サーバーの統合 I/O ユニットの VPP (Virtual Pin Port) により、システムが停止 (ハングアップ) することがあります。

回避方法

- システムの電源を入れ直します。
電源のリセットには、電源の入れ直し (電源のオフとオン) を含みます。

▼ **Oracle Linux 6.2** 以降、**Oracle ILOM** がシステム情報を取得しない (7175441)

Oracle System Assistant は Oracle Hardware Management Pack RPM をインストールしますが、`hwmgmt` エージェントが RPM のインストールに含まれておらず、手動で起動する必要があります。

回避方法

- `hwmgmt` エージェントを手動で起動します。
Oracle Hardware Management Pack のドキュメントを参照してください。
<http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs>

Linux の一部バージョンに **Oracle System Assistant USB** デバイスをマウントできない

エントリ 28 ページの「一部のオペレーティングシステムで Oracle System Assistant USB デバイスをマウントできない」を参照してください。

Oracle VM および VMware ESXi に関する問題

このセクションの各トピックでは、Sun Blade X4-2B における Oracle VM および ESXi ソフトウェアの問題点について説明します。

- 39 ページの「Oracle VM の現時点での問題点」
- 41 ページの「VMware ESXi の現時点での問題点」

Oracle VM の現時点での問題点

このセクションの各トピックでは、Sun Blade X4-2B における Oracle VM OS の問題点について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題点の一覧です。

問題点へのリンク	回避方法
39 ページの「Oracle VM 3 は PCIe EM ホットプラグをサポートしない (16566061)」	はい
40 ページの「大容量メモリー構成の Oracle VM のインストールでは追加の手順が必要 (7195262)」	該当なし
41 ページの「Oracle VM 3.0.x 上で Oracle System Assistant の USB デバイスをマウントできない (7149878)」	該当なし
41 ページの「Oracle VM 3.0 上で日付が間違っている (7061790)」	なし

▼ Oracle VM 3 は PCIe EM ホットプラグをサポートしない (16566061)

Oracle VM 3.X を実行するサーバーの PCIe EM をホットスワップしようとする
と、サーバーがリブートすることがあります。Oracle VM3 はホットプラグおよび
ホットスワップをサポートしていません。

回避方法

- PCIe EM をホットプラグまたはホットスワップしないでください。PCIe EM のホットプラグおよびホットスワップはサポートされていません。

▼ 大容量メモリー構成の Oracle VM のインストールでは追加の手順が必要 (7195262)

大容量メモリー構成の Oracle VM のインストールでは、Oracle System Assistant シェルを使用する追加の手順が必要です。

- 始める前に
- この手順では、vi エディタに関する知識が必要です。
 - Oracle System Assistant の起動と使用の詳細については、『Oracle X4 シリーズ サーバー管理ガイド』を参照してください。

1 Oracle System Assistant を起動します。

ブート画面または Oracle ILOM から Oracle System Assistant を起動できます。

2 シェルを起動するには、「Advanced」タブをクリックし、「Shell」タブをクリックし、「Start Shell」ボタンをクリックします。

シェルターミナルウィンドウが表示されます。シェルプロンプトが表示されます。

```
#
```

3 /opt/osa/etc/osInstall/syslinux.ovm.cfg にある syslinux.ovm.cfg ファイルを編集します。

```
# vi /opt/osa/etc/osInstall/syslinux.ovm.cfg
```

4 すべてのラベルに次のパラメータを追加します。

```
dom0_mem=max:128G (レスキューラベルの場合は max:126G)
```

編集後、ファイルは次のようになるはずです。

```
# Copyright (c) 2011, 2012, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.
default ks
prompt 1
timeout 30
display boot.msg
F1 boot.msg
F2 options.msg

label xen
kernel mboot.c32
append xen.gz dom0_mem=max:128G --- vmlinuz --- initrd.img
label p2v
kernel mboot.c32
append xen.gz dom0_mem=max:128G --- vmlinuz p2v --- initrd.img
label rescue
kernel mboot.c32
append xen.gz dom0_mem=max:126G --- vmlinuz rescue --- initrd.img
label ks
kernel mboot.c32
append xen.gz dom0_mem=max:128G --- vmlinuz ks=file:/ks.cfg --- initrd.img
```

Oracle VM 3.0.x 上で Oracle System Assistant の USB デバイスをマウントできない (7149878)

エントリ 28 ページの「一部のオペレーティングシステムで Oracle System Assistant USB デバイスをマウントできない」を参照してください。

Oracle VM 3.0 上で日付が間違っている (7061790)

Oracle VM サーバーは、現在年が 2005 年の状態でブートされることがあります。SP、Host TOD、および RTC のクロックは同期されていないため、サーバーをブートするたびに常に正しい時間設定が維持されるとはかぎりません。

VMware ESXi の現時点での問題点

このセクションの各トピックでは、Sun Blade X4-2B における VMware ESXi ソフトウェアの問題点について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題点の一覧です。

問題点へのリンク	回避方法
41 ページの「ESXi で Oracle System Assistant の USB デバイスをマウントできない (7154313)」	なし

ESXi で Oracle System Assistant の USB デバイスをマウントできない (7154313)

ESXi サーバー上では Oracle System Assistant USB デバイスをマウントできませんが、同デバイスには、GUEST OS のインストール後、ESXi クライアント経由でアクセスできます。

Oracle Solaris の問題点

このセクションでは、Sun Blade X4-2B でサポートされている Oracle Solaris オペレーティングシステムに関する問題点について説明します。

- 43 ページの「Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ」
- 43 ページの「Oracle Solaris 10 および Solaris 11 OS の現時点での問題点」

Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ

Oracle Solaris 10 1/13 をサーバーにインストールする前に、次の表に示されているパッチをインストールしてください。

必要なパッチ	修正済み CR	説明
150179-01	15755801、15807688	このパッチは Ivy Bridge-EP ベースの Xeon E5 プロセッサのサポートを提供します。
150385-01	15786384	このパッチは、hcts conn5_net テストの実行時のシステムのハングアップの問題を修正します。
148678-01	16384609	このパッチは Oracle Solaris オペレーティングシステムのブート時のカーネルパニックの問題を修正します。

Oracle Solaris 10 および Solaris 11 OS の現時点での問題点

このセクションの各トピックでは、Sun Blade X4-2B における Oracle Solaris 10 および Solaris 11 OS の問題点について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題点の一覧です。

問題点へのリンク	回避方法
44 ページの「FMA の 2 つの HA を使用する前に、SRU 11 でインストール済みの Oracle Solaris 11.1 オペレーティングシステムをアップグレードする (17243186)」	なし

問題点へのリンク	回避方法
44 ページの「Oracle Solaris X86 でデュアル 8Gb ファイバチャネルとデュアル 1 GbE (Emulex) がサポートされない」	なし
44 ページの「Desktop Package を含む Solaris 11.1 は ILOM を使用して電源をオフにできない (16816951)」	はい
45 ページの「sys-unconfig の実行後、システムがハングアップしたように見える (16353003)」	はい
45 ページの「Oracle Solaris 11.1 を Linux iSCSI ターゲットにインストールできない (16274469)」	はい
45 ページの「Oracle Solaris 10 1/13 および 11.1 で、QDR IB-HCA PCI-E Gen2 Mellanox ConnectX-2 Base EM のホットプラグが失敗することがある (7074000、7098279)」	はい
46 ページの「システムのブート中に警告が表示される (6913723)」	なし

FMA の 2 つの HA を使用する前に、SRU 11 でインストール済みの Oracle Solaris 11.1 オペレーティングシステムをアップグレードする (17243186)

サーバーに 2.7 GHz、12 コア、130W プロセッサを搭載しており、Fault Management Architecture (FMA) の 2 つのホームエージェント (HA) 機能を使用する必要がある場合、オペレーティングシステムを使用する前に、Support Repository Update (SRU) 11 によって、インストール済みの Oracle Solaris 11.1 オペレーティングシステムをアップグレードする必要があります。

Oracle Solaris X86 でデュアル 8Gb ファイバチャネルとデュアル 1 GbE (Emulex) がサポートされない

Oracle Solaris で Sun Blade X4-2B を使用している場合、デュアル 8Gb ファイバチャネルとデュアル 1 GbE (Emulex) はこのシャーシにインストールできません。

▼ Desktop Package を含む Solaris 11.1 は ILOM を使用して電源をオフにできない (16816951)

Desktop Package を含む Solaris 11.1 は ILOM Web インタフェースまたは CLI を使用して電源をオフにできません。

回避方法

- 1 `/usr/share/dbus-1/services/gnome-power-manager.service` で、`--verbose` を `Exec=/usr/bin/gnome-power-manager` の行に追加します。
編集した行は次のようになります。

```
Exec=/usr/bin/gnome-power-manager--verbose
```

- 2 GNOME パネルのメニューリストから「System」->「Preferences」->「Startup Applications」を選択します。
- 3 「Power Manager」->「Edit」を選択します。
- 4 コマンドを `gnome-power-manager --verbose` に変更します。

▼ **sys-unconfig の実行後、システムがハングアップしたように見える (16353003)**

`sys-unconfig` の実行時、Java コンソール (`console=text`) で `init 0` および `uadmin 16` が機能して完了しません。このコマンドは、`ttya` コンソールで機能します。

回避方法

- Solaris をブートする前にコンソールを `ttya` にリダイレクトします。

▼ **Oracle Solaris 11.1 を Linux iSCSI ターゲットにインストールできない (16274469)**

Linux ターゲットのレガシー iSCSI モードで Sun Blade X4-2B に Solaris 11.1 をインストールしないでください。

回避方法

- インストールには、Solaris または Windows iSCSI ターゲットを使用してください。

▼ **Oracle Solaris 10 1/13 および 11.1 で、QDR IB-HCA PCI-E Gen2 Mellanox ConnectX-2 Base EM のホットプラグが失敗することがある (7074000、7098279)**

Solaris 10 1/13 OS および Solaris 11.1 OS で、QDR IB-HCA PCI-E Gen2 Mellanox ConnectX-2 Base EM のホットプラグが失敗することがあります。

回避方法

- EM をホットプラグするには、次のコマンドを実行します。

```
# rem_drv iser
```

```
# rem_drv rdsv3
```

```
# reboot
```

▼ システムのブート中に警告が表示される (6913723)

Solaris 10 8/11 OS のシステムブート中に次のような警告がコンソールに表示されることがあります。

```
WARNING: pci_process_acpi_device: invalid _BBN 0xfc
```

- これらの警告は害がないため、無視してかまいません。

Windows に関する問題

このセクションの各トピックでは、Sun Blade X4-2B 上で動作する Windows OS の問題点について説明します。次の表は、問題と発表の一覧です。

問題点へのリンク	回避方法
47 ページの「デュアル 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE HBA (QLogic) カードのホットプラグにより、Windows 2012 がクラッシュすることがある (17058802)」	なし
47 ページの「インストール済みの Linux システムに Windows OS をインストールする前に、BIOS を出荷時デフォルトにリセットする (15890512)」	はい
48 ページの「hwmgmtcli ツールの起動時のエラーメッセージ (15909859)」	はい

デュアル 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE HBA (QLogic) カードのホットプラグにより、Windows 2012 がクラッシュすることがある (17058802)

Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシ内のデュアル 16Gb ファイバチャネルまたはデュアル 10 GbE HBA (QLogic) PCIe EM カードの頻繁なホットプラグと取り外しにより、Windows 2012 サーバーモジュールがクラッシュすることがあります。

▼ インストール済みの Linux システムに Windows OS をインストールする前に、BIOS を出荷時デフォルトにリセットする (15890512)

インストール済みの Linux システムに Windows 2012 OS をインストールすると、致命的なエラーが発生する可能性があります。

回避方法

- **Linux** がインストール済みのシステムに **Windows** をインストールする必要がある場合は、**Windows** をインストールする前に、**BIOS** を出荷時デフォルトにリセットしてください。

▼ **hwmgmtcli ツールの起動時のエラーメッセージ (15909859)**

Windows 2008 SP2 および Windows 2008 R2 のインストール後に、Oracle HMP ツールの hwmgmtcli が機能しないことがあります。hwmgmtcli が呼び出されると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
This application has failed to start because hwmgmtcommon.dll was not found.
```

```
Re-installing the application may fix this problem.
```

SNMP エージェントが最初にインストールされていない場合、Oracle HMP エージェントがインストールされません。Oracle Hardware Management Agent をインストールする前に SNMP がインストールされている必要があります。

回避方法

- 1 **SNMP** サービスをインストールします。
- 2 **oracle-hmp-agents.msi** ファイルをクリックして、**Oracle HMP** エージェントを再インストールします。

oracle-hmp-agents.msi ファイルは Oracle HMP ソフトウェアパッケージにあります。51 ページの「サーバーファームウェアおよびソフトウェアの更新の入手」を参照してください。

ドキュメントの正誤情報

このセクションには、Sun Blade X4-2B ドキュメントまたはサービスラベルのエラーに関する情報が含まれます。次の表は、このセクションで取り扱う問題点の一覧です。

問題点へのリンク	回避方法
49 ページの「サービスラベルに表示された REM ケーブル」	なし

サービスラベルに表示された **REM** ケーブル

X4-2B サービスラベルには、サーバーモジュールマザーボード上の REM ストレージドライブケーブルが点線が表示されます。このケーブルは、Sun Blade X42-B サーバーモジュールでサポートされていません。

サーバーファームウェアおよびソフトウェアの更新の入手

このセクションでは、サーバーファームウェアおよびソフトウェアの更新にアクセスするためのオプションについて説明します。

説明	リンク
サーバーファームウェアとソフトウェアの更新について説明します。	51 ページの「ファームウェアとソフトウェアの更新」
ファームウェアおよびソフトウェアへのアクセスオプションについて説明します。	52 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション」
使用可能なファームウェアおよびソフトウェアのリリースを確認します。	52 ページの「ソフトウェアリリース」
Oracle System Assistant、My Oracle Support、または物理メディアのリクエストを使ってファームウェアおよびソフトウェアを取得する方法について学びます。	54 ページの「MOS または PMR からのファームウェアおよびソフトウェアの取得」
ファームウェアおよびソフトウェアの更新をその他の方法を使ってインストールします。	58 ページの「その他の方法による更新のインストール」

ファームウェアとソフトウェアの更新

サーバーのファームウェアやソフトウェアは定期的に更新されます。これらの更新はソフトウェアリリースとして使用可能になります。ソフトウェアリリースは、サーバーで使用できるすべてのファームウェア、ソフトウェア、ハードウェアドライバ、ツール、およびユーティリティを含む、ダウンロード可能なファイル（パッチ）のセットです。これらのファイルは一緒にテストされ、使用するサーバーで動作することが確認されています。

サーバーファームウェアおよびソフトウェアは、新しいソフトウェアリリースが入手可能になり次第、更新してください。ソフトウェアリリースには、多くの場合はバグの修正が含まれており、サーバーを更新することで、サーバーファームウェアおよびソフトウェアが最新であることが保証されます。

ソフトウェアリリースの各パッチに付属する ReadMe ドキュメントには、そのパッチに関する情報(前回のソフトウェアリリースから変更された点や変更されていない点、今回のリリースで修正されたバグなど)が含まれています。

サーバードキュメントの一部であるプロダクトノートでは、サーバーでサポートされる最新リリースのサーバーソフトウェアリリースが特定されます。

ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション

サーバーのファームウェアやソフトウェアの最新リリースを取得するには、次のいずれかのオプションを使用します。

- **Oracle System Assistant** - Oracle System Assistant は、出荷時にインストールされている、Oracle サーバー用のオプションであり、最新のソフトウェアリリースを簡単にダウンロードおよびインストールできるようにします。

Oracle System Assistant の使用については、『[Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド](http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs)』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)を参照してください。

My Oracle Support - すべてのシステムソフトウェアリリースは、<http://support.oracle.com> の My Oracle Support から入手できます。

My Oracle Support Web サイトで入手できるものについては、54 ページの「[My Oracle Support](#)」を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする」を参照してください。

My Oracle Support からソフトウェアリリースをダウンロードする手順については、55 ページの「[物理メディアのリクエスト](#)」を参照してください。

- **物理メディアのリクエスト (PMR)** - My Oracle Support から入手可能な1つ以上のソフトウェアリリースを含んだDVDをリクエストできます。
詳細は、55 ページの「[物理メディアのリクエスト](#)」を参照してください。
- **その他の方法** - Oracle Enterprise Manager Ops Center、Oracle Hardware Management Pack、または Oracle ILOM を使ってサーバーのソフトウェアおよびファームウェアを更新できます。
詳細は、58 ページの「[その他の方法による更新のインストール](#)」を参照してください。

ソフトウェアリリース

My Oracle Support 上のソフトウェアリリースは、製品ファミリ (Sun Server など)、続いて製品 (特定のサーバーやブレード)、そして最後にソフトウェアリリースのバージョンによってグループ化されています。ソフトウェアリリースには、サーバーまたはブレードの更新されたソフトウェアやファームウェアがすべてダウンロード可能な一連のファイル (パッチ) として含まれており、それに含まれる

ファームウェア、ドライバ、ツール、ユーティリティはすべて一緒にテストされ、サーバーとの互換性が保証されています。

各パッチは zip ファイルで、ReadMe ファイル、およびファームウェアやソフトウェアファイルを含むサブディレクトリセットが格納されています。ReadMe ファイルには、前回のソフトウェアリリース以降に変更されたコンポーネントおよび修正されたバグの詳細が記載されています。

My Oracle Support では、次の表で説明するようなサーバー用の一連のソフトウェアリリースが提供されています。これらのソフトウェアリリースを取得するには、My Oracle Support からファイルをダウンロードするか、あるいは物理メディアのリクエスト (PMR) を Oracle に対して発行します。あるいは、Oracle System Assistant を使って同じファームウェアやソフトウェアをサーバーにダウンロードすることもできます。

パッケージ名	説明	このパッケージをダウンロードするタイミング
X4-x SW release – Firmware Pack	Oracle ILOM、BIOS、およびオプションカードファームウェアを含む、すべてのシステムファームウェアを格納しています。	最新のファームウェアが必要です。
X4-x SW release – OS Pack	特定の OS のすべてのツール、ドライバ、およびユーティリティのパッケージが含まれます。OS Pack は、サポートされるオペレーティングシステムのバージョンごとに入手できます。 ソフトウェアには、Oracle Hardware Management Pack および LSI MegaRAID ソフトウェアが含まれます。 Windows OS の場合、この OS Pack には Intel Network Teaming and Install Pack も含まれます。	OS 固有のツール、ドライバ、またはユーティリティを更新する必要があります。
X4-x SW release – All Packs	Firmware Pack、すべての OS Pack、およびすべてのドキュメントを含みます。 このパックには、Oracle VTS や Oracle System Assistant イメージは含まれません。	システムファームウェアと OS 固有のソフトウェアの組み合わせを更新する必要があります。

パッケージ名	説明	このパッケージをダウンロードするタイミング
X4-x SW release – Diagnostics	Oracle VTS 診断イメージを含みます。	Oracle VTS 診断イメージが必要です。
X4-x SW release – Oracle System Assistant Updater	Oracle System Assistant 回復および ISO 更新イメージを含みます。	Oracle System Assistant を手動で回復および更新する必要があります。

MOS または PMR からのファームウェアおよびソフトウェアの取得

Oracle System Assistant を使用して、最新のソフトウェアリリースを簡単にダウンロードして使用できます。詳細については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)を参照してください。

ただし、更新されたファームウェアやソフトウェアを取得するには、My Oracle Support (MOS) を使用するか、または物理メディアのリクエスト (PMR) を Oracle に送信することもできます。詳細については、次を参照してください。

- 54 ページの「My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする」
- 55 ページの「物理メディアのリクエスト」

▼ My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする

- 1 My Oracle Support の Web サイト (<http://support.oracle.com>) にアクセスします。
- 2 My Oracle Support にサインインします。
- 3 ページの上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
画面右に「パッチ検索」ペインが表示されます。
- 4 「検索」タブ領域内で、「製品またはファミリー (拡張)」をクリックします。
検索フィールドを含む「検索」タブ領域が表示されます。
- 5 「製品」フィールドで、ドロップダウンリストから製品を選択します。
あるいは、製品名 (たとえば、Sun Server X4-2) の全体または一部を、一致するものが表示されるまで入力します。

- 6 「リリース」フィールドで、ドロップダウンリストからソフトウェアリリースを選択します。
使用可能なすべてのソフトウェアリリースを表示するには、リストを展開します。
- 7 「検索」をクリックします。
「バッチの詳細検索結果」画面が表示され、ソフトウェアリリースのバッチが一覧表示されます。
入手可能なソフトウェアリリースの説明については、[52 ページの「ソフトウェアリリース」](#)を参照してください。
- 8 ソフトウェアリリースのバッチを選択するには、ソフトウェアリリースバージョンの横のバッチ番号をクリックします。
Shift キーを使用すると複数のバッチを選択できます。
ポップアップアクションパネルが表示されます。パネルには、「README」、「ダウンロード」、「計画に追加」オプションを含め、いくつかのアクションオプションがあります。「計画に追加」オプションの詳細は、関連するボタンをクリックして、「なぜ計画を使用するのですか。」を選択してください。
- 9 このバッチの **ReadMe** ファイルを確認するには、「README」をクリックします。
- 10 ソフトウェアリリースのバッチをダウンロードするには、「ダウンロード」をクリックします。
- 11 「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスで、バッチの **zip** ファイル名をクリックします。
ソフトウェアリリースのバッチがダウンロードされます。

物理メディアのリクエスト

手続き上、Oracle Web サイトからダウンロードできない場合は、物理メディアのリクエスト (PMR) を Oracle に対して発行することで最新のソフトウェアリリースパッケージを入手できます。PMR を発行するための推奨の方法は、My Oracle Support (MOS) の Web サイトを使用することです。

これらのセクションでは、物理メディアのリクエストを発行する際の大まかなタスクについて説明します。

- [56 ページの「物理メディアのリクエストのための情報の収集」](#)
- [56 ページの「物理メディアのリクエスト \(オンライン\)」](#)
- [58 ページの「物理メディアのリクエスト \(電話\)」](#)

物理メディアのリクエストのための情報の収集

物理メディアのリクエスト (PMR) を行うには、サーバーの保証またはサポート契約が必要です。

PMR を実行する前に、次を行なってください。

- 製品名、ソフトウェアリリースのバージョン、および必須パッチを入手します。最新版のソフトウェアリリースおよびリクエストしているソフトウェアリリースのパッチの名前を知っていると、リクエストを実行しやすくなります。
- *My Oracle Support* にアクセスできる場合 - 54 ページの「[My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする](#)」の手順に従って、最新のソフトウェアリリースバージョンを確認し、入手可能なソフトウェアリリースパッケージ (パッチ) を表示します。パッチのリストを表示したあと、ダウンロード手順を続行しない場合は「パッチの詳細検索結果」画面からほかのページに移動できます。
- *My Oracle Support* にアクセスできない場合 - 52 ページの「[ソフトウェアリリース](#)」の情報を使用して必要なソフトウェアリリースのパッチを特定し、最新のソフトウェアリリースバージョンのそれらのパッチをリクエストします。
- 出荷情報を手元に用意します。リクエストの際に、連絡先の名前、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所を入力する必要があります。

▼ 物理メディアのリクエスト (オンライン)

始める前に リクエストを行う前に、56 ページの「[物理メディアのリクエストのための情報の収集](#)」に記載されている情報を収集します。

- 1 **My Oracle Support** の Web サイト (<http://support.oracle.com>) にアクセスします。
- 2 **My Oracle Support** にサインインします。
- 3 ページの右上の「問合せ先」リンクをクリックします。
「サービス・リクエストの作成: 問題」画面が表示されます。
- 4 リクエストを次のように記述します。
 - a. 「問題のサマリー」フィールドに **PMR for latest software release** と入力します。
 - b. 「問題タイプ」ドロップダウンリストからソフトウェアと OS メディア・リクエストに関する項目を選択します。
 - c. 「サポート ID」フィールドに、サポート契約に関連付けられたカスタマサポート ID を入力します。

- 5 「サービス・リクエストの作成:ソリューション」画面をスキップするため、画面右上隅の「次へ」ボタンを2回クリックします。
「サービス・リクエストの作成:詳細」画面が表示されます。
- 6 次のように、リクエストに関する追加情報を提供します。
 - a. 「追加情報」セクションで、次の表に記載した質問に答えます。

質問	回答
物理ソフトウェアメディアの送付リクエストですか？	はい
どの製品ラインに関係するメディアのリクエストですか？	Sun 製品
パッチのダウンロードに必要なパスワードの確認ですか？	なし
CD/DVD でのパッチのリクエストですか？	はい
パッチを CD や DVD でご希望の場合、パッチの番号、OS とプラットフォームをお知らせください。	希望するソフトウェアリリースのダウンロードごとに、パッチ番号を入力してください。
物理メディア送付をリクエストしている製品の名前とバージョンをリストしてください。	製品名: Sun Blade X4-x バージョン: 最新のソフトウェアリリース番号
リクエストするメディアの OS またはプラットフォームは何ですか？	OS 固有のダウンロードをリクエストする場合は、ここで OS を指定します。システムファームウェアのみをリクエストする場合は、「一般」と入力します。
この送付に言語は必要ですか？	なし

- b. 送付先/連絡先情報(連絡先の名前、電話番号、電子メールアドレス、会社名、送付先住所など)を入力します。
- 7 「次へ」ボタンをクリックします。
「サービス・リクエストの作成:重大度/連絡先」画面が表示されます。
- 8 連絡先電話番号と好みの連絡手段を入力します。
- 9 「発行」ボタンをクリックします。
これで、物理メディアのリクエストが完了します。物理メディアを受け取るまで、最大7営業日かかる可能性があります。

▼ 物理メディアのリクエスト(電話)

始める前に リクエストを行う前に、56 ページの「物理メディアのリクエストのための情報の収集」に記載されている情報を収集します。

- 1 次の **Oracle Global Customer Support Contacts Directory** にある該当する番号を使用して、**Oracle** サポートに電話をかけます。

<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>

- 2 **Sun Blade X4-x** の物理メディアのリクエスト (PMR) を行いたい旨を **Oracle** サポートに伝えます。

- My Oracle Support から特定のソフトウェアリリースパッケージおよびパッチ番号の情報が得られる場合は、この情報をサポート担当者に伝えます。
- ソフトウェアリリースパッケージの情報が見つからない場合は、Sun Server X4-x の最新のソフトウェアリリースをリクエストします。

その他の方法による更新のインストール

Oracle System Assistant と My Oracle Support を使用する以外に、次のいずれかの方法を使用して、更新されたファームウェアおよびソフトウェアをインストールできます。

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** – Ops Center Enterprise Controller を使って Oracle から自動的に最新のファームウェアをダウンロードするか、Enterprise Controller 内にファームウェアを手動でロードできます。どちらの場合も、Ops Center で1つ以上のサーバー、ブレード、またはブレードシャーシ上にファームウェアをインストールできます。

詳細については、次にアクセスしてください。

<http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html>

- **Oracle Hardware Management Pack** – Oracle Hardware Management Pack 内の fwupdate CLI ツールを使用すると、システム内部のファームウェアを更新できます。

詳細については、次にある Oracle Hardware Management Pack のドキュメントライブラリを参照してください。

<http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs>

- **Oracle ILOM** – Oracle ILOM の Web インタフェースまたはコマンド行インタフェースを使って Oracle ILOM および BIOS のファームウェアを更新できます。

詳細は、次にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 のドキュメントライブラリを参照してください。

<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs>